

韓国

衣料

衣料市場が 5.7% 成長の見込み...2011 年

現地報道によると、韓国繊維産業連合会と韓国ファッション協会の共同調査で、2011 年の韓国の衣料市場規模が前年比 5.7% 増の 27.7 兆ウォン（約 2 兆円）に拡大するとの見込みが示された。

同調査によると、特にスポーツウェア市場が好調で、アウトドア用の人気が高い。またインナーウェア市場も急成長しており、スタイルを美しく見せるなど、消費者の価値観の変化に対応したファッション性の高いインナーが注目されている模様だ。

また男性衣料市場も拡大している。2010 年の男性衣料市場規模は前年比 14% 増の 5.2 兆ウォン（約 3,800 万円）で、今年はさらに 6.4% の成長が予測されている。

中国

繊維政策

工業情報化部、化繊業界に過剰投資を警告

中国工業情報化部は 1 月 5 日、中国の化繊業界に対して、投資の急激な伸びがみられていることから、投資リスクの管理を強化する必要があると警告した。

統計によると、2010 年 1-11 月の繊維業界の固定資産投資額（500 万円以上のプロジェクト）は前年同期比 29.5% 増の 3,508 億元、その伸び率は前年同期を 20.0 ポイント上回り、全国工業投資の伸びを 6.8 ポイント上回っている。繊維業界の新規着工プロジェクト数は 7,612 件で前年同期比 8.8% 増である。2010 年 1-11 月の化繊業界の実際完成投資額は前年同期比 49.3% 増の大幅増となった。

企業動向

第 12 次五か年計画に対する主要企業の動き

新郷白鷺化繊

創業 100 年の老舗企業。第 12 次五か年計画でも 2 大主力業務である化繊事業とバイオ事業に注力する。化繊事業では、レーヨン長繊維、短繊維、スパンデックスの 3 素材が柱である。レーヨン短繊維は技術進歩によって製品付加価値を高めており、スパンデックスは後発の優位性によって、エネルギー消費や生産コストを抑えている。レーヨン生産においては、原料購入の戦略がますます重要となっている。同社は原料を個別に購入しているが、国際市場で価格決定権を持っていない。そのため、今後はある種の方法での共同購入を検討する予定であるという。また、

バイオ事業では同社の子会社である新郷双鷺生物技術有限公司は、政府が民間企業の医療業界への参入を奨励する政策を採っていることから、新たなビジネスチャンスをもたらすとの期待がある。

浙江桐昆集団

桐昆集団は、品質管理、技術改造への取り組み強化によって、規模、コスト、品質におけるトップの立場を維持する方向である。2015 年未までに、ポリエステル長繊維の差別化比率を 65%以上とし、中国のポリエステル業界トップ企業としての地位を揺るぎないものとする計画である。さらに、産業チェーンを整備するため、2015 年未までに PTA、油剤など原料、助剤の自給化を達成する。同社の 2009 年のポリエステル長繊維の生産量は 124 万ト、中国国内のシェアは 8.8%でトップである。設備の 80%以上は、ドイツや日本から導入されたものである。POY、FDY、DTY、複合糸、強力糸など 300 品種以上を製造しており、化繊業界の「ウォールマート」といわれている。傘下の嘉興石化（年産 80 万ト PTA プロジェクト）の第 1 期は総投資額 35 億元、2012 年に生産開始の予定である。

江蘇盛虹化繊

同社は、石油資源に過度に依存してきた現状から脱却するため、バイオマス繊維・原料の発展に注力する。現在、PTT 繊維専用の紡糸ライン（設備：3 万ト/年）を有しており、PTT 長繊維を生産、 Apparel 用途に用いてきた。川上遡及を計画しており、PTT 重合ラインおよび原料の 1,3 プロパンジオールの生産ラインを建設する計画である。また、PET ボトル等を原料にして、高品質のリサイクル繊維を生産する計画がある。

唐山三友集団

同社は差別化に注力しており、現在の製品差別化率は 90%以上、大きな収益を生んでいる。特に竹繊維の生産技術と設備は国内トップである。同社は自社技術によって 100%竹繊維、超極細竹繊維、高強力竹繊維、複合竹繊維などの新製品を開発している。また、レーヨン短繊維、モダル繊維、竹繊維の 3 大製品をグレードアップし、今後 3 年以内に生産能力を 40 万ト以上とする計画である。レーヨン繊維では、傘下の興達化繊の現有の 16 万ト/年の生産ラインに加え、2 期のプロジェクトで年産 6 万ト/年以上のラインを 4 本建設する計画である。2 本のラインは 2011 年第 1 四半期に操業開始予定である。モダル繊維では、既に技術開発が進み今後適切な時期に市場に出す予定である。竹繊維では現在の生産状況、技術開発の状況から判断し、新規プロジェクトの立ち上げを検討する。

2011年の開発重点は竹繊維と原着繊維であり、竹繊維3万ト、原着繊維2万ト、難燃繊維は3,000トの生産目標を掲げている。竹繊維の開発は、中国の豊富な竹資源を利用すること、レーヨン原料の不足などに対応するものであり、原着繊維の開発は、染色工程での汚染問題の解決につながるものである。

インドネシア

海外投資 中国企業、Karawangを繊維生産基地に

1月10日、インドネシア繊維産業連盟のAde Sudrajat会長は、多くの中国の繊維企業が西ジャワ州Karawangを投資先として選んでいることを明らかにした。既にKarawangには60社の中国企業が繊維品、アパレルの工場を建設しているという。2011年末には稼働を開始する見込みである。

Ade氏によると、中国繊維企業の同地への投資は既に1億ドルを超え、これらの投資によって約10万人の就業機会が生まれるという。Karawangのほか、西ジャワ州・Subang、Sukabumi、中部ジャワ州・Sragen、Demak、Solo、Sukoharjoなども、中国繊維企業の投資先として注目されているという。

オランダ

環境 Colbond、Aquafilとリサイクル事業で提携へ

Arnhemに本社を置くカーペット基布メーカーColbondは、イタリアの合繊メーカーAquafilと100%リサイクルのパイルや基布の開発に向けて提携することを発表。

基布にはColbondの再生基布Colback Green、またパイルにAquafilの再生ナイロン6"Econyl"を使用する。

Colbondは2007年、初めて不織布製の再生ポリエステル基布を上市、Colback Greenは再生ポリエステルから作られている。1月15日～18日にドイツHannoverで開催された「Domotex2011」に初めて出展した。

Aquafil関係者は、「今回の提携は、カーペット産業のCO2排出量削減に向けて大きな一歩となり、カーペット業界が抱える廃棄物に対する問題を解決する一助となるだろう」と語った。